

報告書

児童生徒一人ひとりの学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて

神河町教育委員会

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としている。なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

◆ 調査内容

ア 教科に関する調査(小学校:国語、算数、理科 中学校:国語、数学、理科)

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

◆ 神河町の状況

教科に関する調査の状況

学 年	教 科	神 河 町
小学校 6 年生	国 語	ほぼ同程度
	算 数	やや下回っている
	理 科	ほぼ同程度
中学校 3 年生	国 語	ほぼ同程度
	数 学	ほぼ同程度

◆ 結果の分析

【学力調査について】

※全国の調査結果と比べて差が大きかったり、無回答率が高かったりした学習内容

(1) 小学校 国語

- ・ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけること

(2) 小学校 算数

- ・ 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加法と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できること

(3) 小学校 理科

- ・ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現すること
- ・ レタスの種子の発芽条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること

(3) 中学校 国語

- ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができること
- ・読み手の立場にたって、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができること

(4) 中学校 数学

- ・式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を持いて説明することができること
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができること

(5) 中学校 理科

中学校理科は、今回初めてオンラインで出題・解答する方式(CBT)が実施され、今回の結果は次回以降の結果の基準となる。学習指導要領に基づき、日常生活上の問題を見だし、適切な問いを設定して課題を解決することに主眼を置いた探究的な問題が多かった。

【生活習慣等について】

・主体的な学び

授業では、児童生徒が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組むことができていると肯定的に回答した児童生徒の割合は約7割であり、全国より少し低い傾向にある。

・対話的な学び 深い学び

学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていると肯定的に回答した小6の割合は約8割で全国と同傾向であり、中3では9割を超え全国より高い傾向にある。

・学校生活について

学校に行くのは楽しいと肯定的に回答した小6は約7割で全国(約9割)を下回っているが、中3は9割を超え全国を上回っている。

・ICT機器を活用した学習状況

ICT機器を活用する自信がある児童生徒については、文書を作成する、情報を収集する・整理する、プレゼンテーションを作成するという項目について、小6の割合が低く中3の割合が高い傾向にある。また、文章を作成する、情報を収集する、プレゼンテーション作成するについては、約7割から約9割近い児童生徒が自信があると答えているが、情報を整理することに課題がみられる。

◆ 今後の対応

課題の見られた設問について詳細に分析を行い、課題の解消および「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。そして、無回答率を下げるために、書く問題では最後まで解答を書こうと努力する力を付けたり、「かみかわトレーニング」の工夫や改善を行い記述式の問題で「書く」ことへの抵抗感を減らしたりする。また、家庭学習への取組を強化するためにも量や質の充実に努めるとともに、スマホなどの使い方も見直していく。

児童生徒の自己有用感を高めるため、冬の自然体験や兵庫型「体験教育」の充実や兵庫版「キャリア・パスポート」等を活用したキャリア教育の更なる充実に図り、「カーミン読書」や「ふるさと学習」などを引き続き推進して豊かな心の教育を充実させていく。